會報

第５８４号

平成２９年５月１日発行

一般社団法人
監査懇話会
編集発行人　菅野　重雄
http://kansakonwakai.com/index.html

第２９５回監査セミナー

平成29年3月28日

講　師：公認会計士・新日本有限責任監査法人　シニアパートナー　中島　康晴氏
演　題：2017年３月期 経理の論点
－ 監査役が知っておくべき会計の世界で今起きていること －
（直前検証：この３月期決算のポイント）

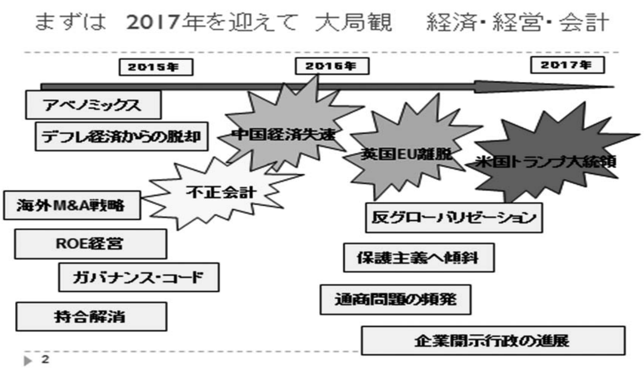
2017年３月期決算について、経済の大局観に始まって、経営課題と注目すべき会計問題、その実例等、監査役が知っておくべきことをお話しします。

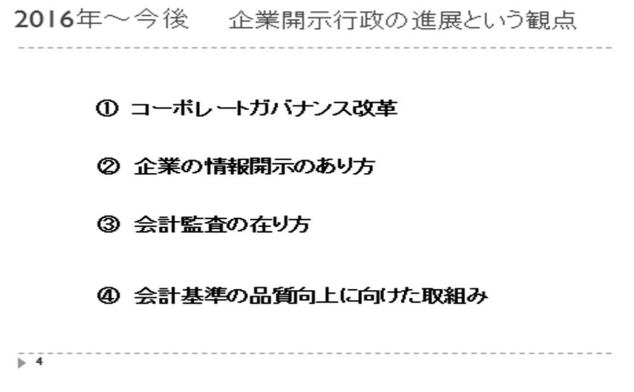
○まずは大局観

経済・経営環境の大局観から

2016年11月８日　　米国　トランプ大統領誕生
2016年６月24日　　英国　EU離脱
2015年６月ごろ　　中国　経済失速
2015年４月から　　不正会計（東芝問題）

それ以外にアベノミクス、デフレ経済からの脱却とその後の停滞、ガバナンスコード、企業開示行政の進展等が、現在の企業を取り巻く環境として影響の大きなものであると思われます。





○2016年～今後　企業開示行政の進展という観点で見てみましょう

①コーポレートガバナンス改革

コーポレートガバナンス・コードに代表されるガバナンス改革、社外役員を入れていく、取締役の構成、監査委員会等設置会社などのガバナンスの動きです。

②企業の情報開示のあり方

決算短信、四半期決算報告書、有価証券報告書等を簡素化できないかという動き、非財務データを活用できないかという動き、フェアディスクロージャールール、いわゆる開示の透明性に向けた動きなどがあります。

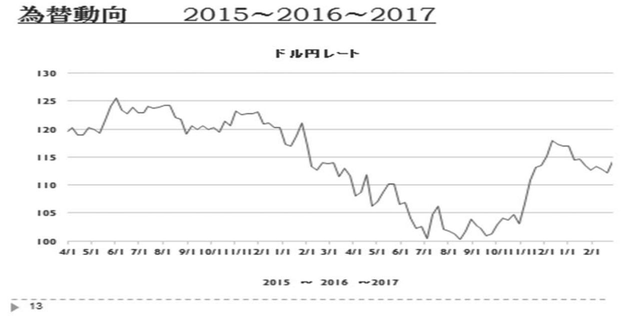
③会計監査のあり方

監査法人のガバナンスコード、監査法人のローテーション、監査報告書の長文化などが検討されております。

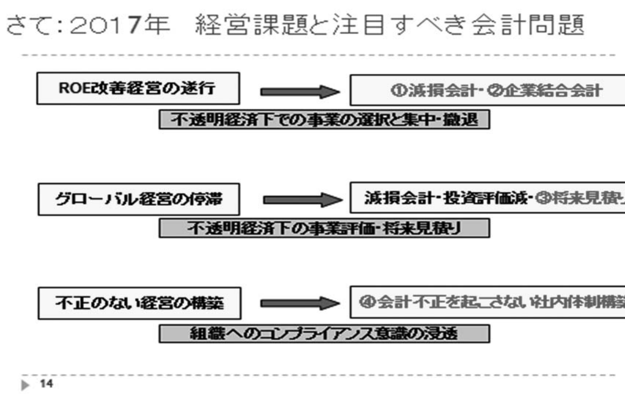
④会計基準の品質向上に向けた取組み

IFRSにコンバージェンスがさらに続いており、現在は収益認識基準がトピックとなっています。

○株価推移と為替の状況の確認をしましょう



○経営課題とそれに連動する会計テーマを絞り込みましょう



①減損会計

資産のグルーピング

↓

減損の兆候

↓

減損損失の認識

↓

減損損失の測定

→使用価値（資産または資産グループから得られる将来キャッシュフローの割引現在価値）と正味売却価額（現時点における売却価額）のどちらか大きい価額まで固定資産簿価を減額（減損）します。

②企業結合会計

非支配株主との取引の見直し

親会社説と経済的単一体説という2つの考え方がありますが、経済的単一体説の考え方になりました。

（経済的単一体説に基づく具体例）

・トヨタはダイハツを100％子会社にする際、このときすでに51％保有している状態から買い増しして100％子会社にしました。この場合、すでに支配権を持った状態でありますので、その後の買い増し部分「のれん」は計上せず、資本剰余金として処理するという考え方です。

すなわち経済的単一体説は、支配権を取るまでの動きが「買収」であり、支配権を取ったあとの動きは損益ではなく資本の変動であるという考え方です。

③投資の評価減

子会社の実質価額の下落の程度に応じて、会計処理を行います。

(1)　業績悪化の場合（下落率50％程度が目安）

(2)　実質価額＜取得価額の50％の場合

注）回復可能性の説明は100％まで回復するということが必要であります。80％までの回復でしたら、回復可能性ありとはいえないことに注意が必要です。

(3)　債務超過の場合

（全額減損に加え、貸倒引当金、債務保証損失引当金計上の検討が必要になります）

(4)　会社清算の場合

追加負担がある場合は、関係会社整理損失引当金等を計上する必要があります。

④将来見積り

・税効果会計

→監査委員会報告第66号の見直しを行いました。これにより、66号の例示区分の判断要件をストックからフローへと変更になりました。

・偶発債務、引当金

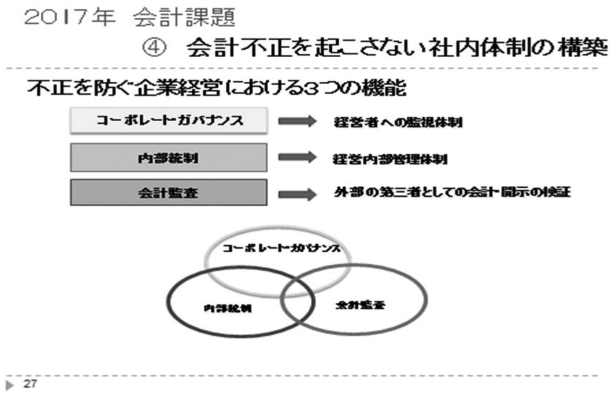
→環境基準等が厳しくなっており、その対応のための引当金には留意。例えば、低濃度PCBについても、引当金計上を検討する必要があるという流れになっております。

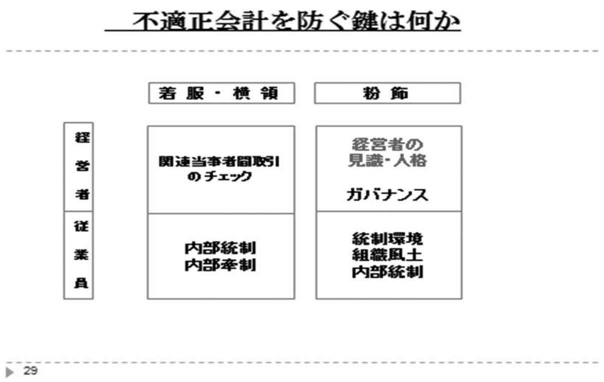
⑤会計不正を起こさない社内体制の構築

不正を防ぐ企業経営における3つの機能は「コーポレートガバナンス」、「内部統制」、「会計監査」であると考えます。

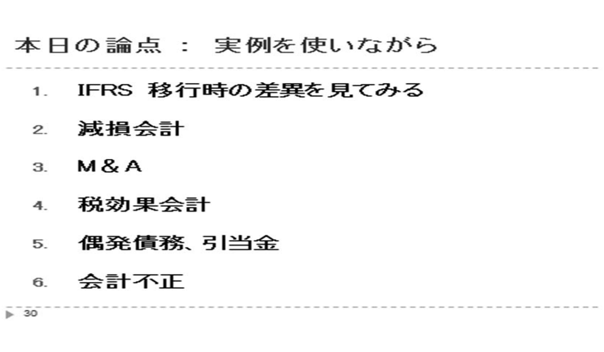
○不適正会計の分類

「着服・横領」と「粉飾」にわけられ、それぞれ上層部・幹部が主体か従業員が主体かに分類されます。近年は従業員による横領・不正の事案が増えている傾向にあり、不適正会計を防ぐ鍵は、主に経営者粉飾についてはガバナンス、従業員不正については内部統制、内部牽制が重要です。

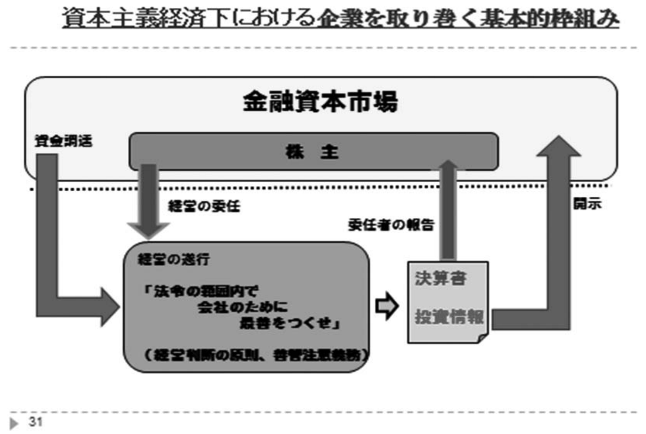


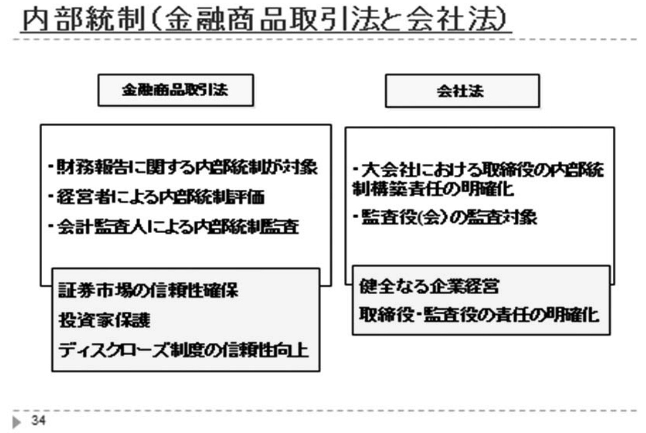


○実例を使いながら会計テーマを概観してみましょう



○会社法と金融商品取引法の位置づけ・趣旨を十分に理解する必要があります





○私見

・「会社のため」に不正（粉飾）は止むを得なかったというようなコメントをする経営者がいます。果たしてそうでしょうか。実態は、自己保身になっている場合がほとんどではないでしょうか。

・KYのすすめ（空気を読み過ぎない)。「忖度」という言葉が流行語大賞にでもなりそうな勢いですが、企業内にもこの「忖度」がはびこっていませんか。経理担当者は経営者の空気を読むような会計処理をする必要はなく、正義感をもって臨んでください。監査役も同様です。忖度の必要はありません。

・赤字が怖くて虚偽記載を行うことは、人間としての正義の道を踏み外し、犯罪者になり下がることです。あの恐ろしい金融マーケットが本当に牙をむくのは、赤字経営に対してではなく、虚偽記載（粉飾）に対してです。肝に銘じておいてください。

○倫理観・道徳観について

「そもそも資本主義社会は、利益を得るためなら何をしてもいいという社会ではない。参加者全員が社会的正義を必ず守るという前提に築かれた社会なのであり、厳しいモラルがあってこそ初めて、正常に機能するシステムなのである」、「透明性が高い社会が築かれてこそ、市場経済は社会の発展に貢献できるようになる」、「経営者が高い倫理観を持ち、すべての企業がフェアで公明正大な経営を実践していく必要がある」、これは稲盛和夫さんの有名な『実学』という本からの抜粋です。

アダム・スミスの『国富論』では、有名なのは「見えざる手」という表現が象徴するように、自由経済を追求すればいい方に向かう、競争こそ正しい姿だという主張がなされていますが、実はアダム・スミスにはもう一つの主著があります。『道徳感情論』です。むしろこちらの方がアダム・スミスとしては力を入れていたようで、死ぬ直前にも改訂の筆を入れていたほどです。そこでは、市民社会の秩序を保つためには、道徳観、倫理観、人間観が大事であることが強調されており、見えざる手が機能するのは、こうした前提があった上での話だということです。

「自由は活力を生むが、ややもすると『節度を失う（いい気に成り過ぎる)』欠点を持っているのではないかというのがいつも気になってきました」という文章はジャーナリストの松山幸雄さんの『自由と節度』という著書からの抜粋です。以前、松山さんの講演を聴いたことがあるのですが、その中で、組織のリーダーたるものに必要な6つの資質を挙げていました。それは、①謙虚さ、②人間性、③柔軟性、④批判精神、⑤広い視野、そして、あと一つは皆様何だとお思いでしょうか。私は10年前に聴いた時はピンと来なかったのですが、正解は「⑥倫理的・道徳的問題の理解」ということでした。それも単なる理解ではなく経験に裏打ちされて「腹に落としている」必要があると思います。今の世の中で、倫理観、道徳観というのは必須であるなと最近改めて感じている次第です。

監査役の皆様におかれましては、以上お伝えしたことを頭の中に入れていただき、会社の進むべき方向に添うようなお仕事を進めていただければ幸いです。

（文責　田中　彰）

第735回講演会

平成29年3月15日

講　師：千葉大学名誉教授　山本　啓一氏
演　題：健康寿命の延ばし方

1．健康寿命とは

健康寿命とは、健康上の問題によって日常の生活が制限されることのない生存期間である。朝、ちゃんと起きられて誰の助けも受けずに着替えや食事風呂等普通の生活ができる期間のこと。我々の健康寿命があとどれだけあるのか気になるところなのでデータを紹介する。

2013年の人口統計をもとに発表された健康寿命は女性75歳、男性71歳。これは2013年に生まれた人間が

いつまで健康で暮らせるかという数字であり、すでに60代70代まで生きている人は、その年になるまでのリスクを乗り越えているのでもっと長くなる。平均寿命と平均余命の関係とおなじで、2013年に生まれた女性の平均寿命が86歳、男性80歳に対して、すでに65～69歳である女性の平均余命はプラス25歳、男性はプラス20歳で、それぞれの平均で女性92歳、男性87歳ということになる。すなわち今年67歳の女性の健康余命はあと14年の81歳、男性はあと11年の78歳ということ。

２．血液循環を良くするとボケを防ぐ

（文中、図は紙面都合で省略します）

大切なことは適切な運動と食事である。過去のこの講演会で食事についての話はいろいろなされたとのことなので、私からは運動に重点をおいて話をし、最後に食事について少し触れることにしたい。

運動では二種類の運動が必要、一つは血液循環を良くするための運動、もう一つは筋力を維持するための運動。年を重ねてきて心配なのは身体が元気でもボケて認知症になることであるが、それを防止するのが血液の循環を良くする運動である。

毛細血管は平べったい細胞がつながり筒状になった管であるが、そのつながりの隙間を通って血液中を流れてくる酸素や栄養分が周りの細胞に供給され、逆に周りの細胞から炭酸ガスや老廃物を取り込んでいる。血液循環が十分でないと代謝がうまく機能せず、細胞そのものが老化することになる。最近の論文によると、老化した細胞から出される良くない物質が血液中に流入して脳の認知機能に悪影響を与えているらしい。その根拠となる実験だが、二匹のネズミの血管を腹のところでつなぎ、血液を両方の身体に循環させるというもの。今までの論文では若いネズミのホルモン等の良い因子によって年寄ネズミの肝臓機能が良くなるとか、傷の治りが早まるとか良いところばかり報告されていたが、最近の論文では年寄の細胞から出た何か悪いものが脳に悪影響を及ぼしているらしいということである。昨年11月22日の『ネイチャー』に記載されているが、脳で記憶をつかさどる海馬の神経細胞の増殖機能に影響があるとのこと。一般の脳細胞は幼児期で分裂が止まり10歳からは減るばかりとなるが、海馬の細胞は大人になるまで分裂を続け、それが学習や記憶に重要だと言われている。図の蛍光色素で色付けた画面のピンクの点は分裂増殖している細胞を示す。YYは若いネズミをつなぎ合わせたとき、YOは若いネズミと年寄のネズミをつなぎ合わせたとき。棒グラフが結果を示すが、年寄のネズミにつながれた若いネズミの海馬の分裂増殖は半分以下となり、年寄のネズミの海馬のそれはたいして増えない。これは年寄ネズミの血液に海馬の細胞分裂を抑える何らかの悪い物質があるからと思われるが、その物質はまだ解明されていない。細胞の老化を防ぎ海馬の細胞分裂を抑制する物質を減らすためには血液の循環を良くする運動が効果的。軽い運動

で十分。運動で筋肉から出たCO_2が血液中にH_2CO_3として溶け込み、延髄がそれを検知して自律神経で心肺機能活動を高めて血液循環を増大させる。図は脳の断面図であるが、エアロビクスを週４回６ヶ月やると脳の灰白質が増えて認知症が抑制される。

３．日常生活での注意

普段の生活で気を付けるべきことは、長時間同じ姿勢をとらないこと、庭いじりや家事手伝いなどで立っている時間を増やすこと、散歩をできるだけ毎日30分以上し、歩きなれたら少し負荷をかけ、なるべく自然の中を歩くこと。カリフォルニアのスタンフォード大学でやった実験によると、繁華街を歩いた時と自然の中を歩いた時の比較で、脳のMRI検査の結果、自然の中を歩いた時のほうがクヨクヨしたりネガティブに考える領域への血行が減ることが確認されている。私自身は杉並区浜田山に住んでいるが、昔いろんな企業の運動場などであったあとに緑地が残っており、そのあたりを散策している。

４．筋力を維持するための運動

年齢とともに筋力が落ちてくるので、なるべく維持するための運動が重要である。10回ぐらいで疲れる程度の負荷をかける運動が好ましい。腹筋も腕立て伏せも10回。腹筋で10回以上できそうならなにか重いものを持ってやればいいし、床上での腕立て伏せがきつければ椅子などを利用して斜めでやればいい。

筋肉は長さ２～４センチの細長い筋細胞がコラーゲン繊維で多数束ねられたもので、両端の骨と結合している腱のあたりはコラーゲンだけになっている。コラーゲンは細胞と細胞を接着する繊維状タンパク質で、いたるところで使われているため、全身にあるタンパクの30％がコラーゲンである。運動神経はそれぞれが末端で50くらいの筋細胞につながり、筋細胞の収縮をつかさどる。力の強さ加減はどれだけの数の筋細胞を興奮させるかによる。

筋細胞の中にミオシンとアクチンという２種類のタンパクがあり、重なり合っているが、ミオシンの首振りによってそれらが互いに滑り込んで収縮が起こる。筋肉には収縮スピードが速い筋肉と持久力のある筋肉があることを聞いたことがあると思うが、それは筋細胞内のミオシンが違うためである。手足を動かす筋肉には動きの速いミオシンをもつ筋肉細胞と遅いミオシンをもつ筋肉細胞が混在しており、通常その比率は早いのが６割、遅いのが４割。100メートル走で10秒を切るような傑出した短距離選手はスピードが速い筋細胞が多く、マラソン選手などは遅いが持久力のある筋細胞が多い。比率の違いは遺伝的に決まっている。筋力の強さはミオシンフィラメントの量で決まる。筋肉細胞内にはたくさんの核があってそれ以上細胞分裂できないので、タンパクを増やして強くすることになるが、放っておくと消耗変性して失われるのでトレーニングにより再生させる必要がある。しかし年を取るとタンパク質の合成能力が落ちてくる。トレーニングによるタンパク質合成促進効果も落ちてくるので、65歳以上は筋力がつかない。年をとっても筋力がつくというのは誤りで、技術向上により結果が出ているだけ。無理をして怪我をすると治るまでの期間に筋肉が急に衰えることになるので、現在できる

こと以上を求めないことが大事。

5．少々きついトレーニングを長続きさせるには

習慣づけが大事。私の場合は、好きな酒を毎日飲むのはやめて、週に2日ほど飲まない日とし、その日に腕立てとか腹筋とか少々きつい運動をすることにした。また、仲間と一緒にやるスポーツ、私の場合は草野球だが、どうしても行かないわけにはいかないのでそれで体を動かすことになる。なによりも家から外に出るのがいい。年を取ったら「キョウヨウ」と「キョウイク」が大事だというが、今日用がある、今日行くところがあると言えるのは大切。

6．その他に気をつけることとして身体を冷やさない

年を取ると細胞の発熱が落ちてくる。冷えると皮膚付近の血管が収縮して血圧を上げる。また寒いと筋肉は細かく痙攣して体温を上げようとする。背骨に沿った中枢神経系を圧迫し神経痛になる。細胞は温度が下がると機能が低下するので身体を冷やさないようにするのは大事である。

7．バランスの良い食事

カロリーの70％を糖から、30％を脂肪でとるようにすること。脂肪は水に溶けにくいので消化されにくく、腹持ちがいい。脂溶性ビタミンは脂肪に溶け込んでいるので脂肪を食べないと摂取できない。筋肉、骨（コラーゲン）、血管、赤血球、免疫抗体、酵素はすべてタンパク質でできており、タンパク質を多くとることが大事。最近ローカーボダイエットと称して、タンパク質だけすなわち肉だけ食べればいいという説がある。たしかにブドウ糖と同じようにカロリーがあるが、分解する時に人体には毒となるアンモニアができてしまうので肉だけというのは良くない。また繊維質を十分に摂ること。消化されずに大腸で腸内細菌が食べ繁殖できる。ビタミンKなどは腸内細菌が作ってくれている。ときどき腸内細菌は体内に入り込むが、それによって対応する免疫系が寛容になるため、外からの異物侵入に対しも必要以上の攻撃をせずに、アトピー等アレルギー反応が起こりにくくなる。

動脈硬化も過剰な免疫反応が原因という説も出ている。腸内細菌を増やす餌としての繊維質が大切。食事は腹八分目として、体重は重くないほうがいい。また、量を減らすとオートファジーが起こる。細胞内にリソソームという袋状の消化器官があり、機能が悪くなったミトコンドリアやタンパク質を取り込んで再利用する仕組みで、ノーベル賞を受けた大隅良典先生が機序を解明した。オートファジーにより細胞の中の代謝が活発になり、ボケにつながるような変な物質も作られにくくなる。食べる量を減らすことはいい効果をもたらす。私は『グルコサミンはひざに効かない』という本を書いたが、決してサプリメント紹介の本ではなく、まじめに食生活について書かせてもらったので参考にしてほしい。これからよい季節になるので、ぜひ外に出て運動し健康寿命を延ばしてください。

（文責　関根　紳仁）

第532回研修見学会

平成29年3月1日

日清オイリオグループ㈱横浜磯子事業場

今回の見学先は横浜市磯子区にある日清オイリオグループ㈱横浜磯子事業場である。毎日の食卓に欠かせない食用油製品等を製造する工場を見学する。

JR根岸線磯子駅に参加者40名が集合し、駅から徒歩数分の工場へ向かう。工場正門を入ると左手に食品工場らしい清潔感のある建物（ウェルネスギャラリー）があり、そこから見学会がスタートした。

①会社概要説明

ウェルネスギャラリーの会議室において本事業場の光畑場長よりご挨拶と概要説明が行われた。まずはこの場所を「事業場」と称する理由についての説明があり、製造部隊と開発部隊（主に化粧品の開発等）を集約したことにより工場と言う名称は使わず、事業場としたとのことである。

日清オイリオグループは1907年の創業で、日本で初めてのサラダ油を「日清サラダ油」の名称で1924年に発売以来、油脂・油糧（サラダ油等）、加工油（マーガリン・ショートニング等）、ファインケミカル（食品・医薬品・化粧品原料等）、ヘルシーフード（ドレッシング・介護食品等）の各種製品を製造・販売し、2002年に日清製油、リノール油脂、ニッコー製油の3社が経営統合し、日清オイリオグループとして新たにスタートし現在に至っている。

横浜磯子事業場は面積が横浜スタジアム9個分の23万3千m²あり、植物油を製造する工場としては日本最大級の規模である。従業員はグループ会社を含め約600名、常駐の協力会社を含めると約1000名の人員が働いているとのことである。また、この事業場の特徴の一つは磯子駅の目の前に立地し住宅街にも近いことから、地域貢献も活発に行っているとのことである。グループの国内生産拠点は、この横浜磯子事業場の他に名古屋工場、堺事業場、水島工場があるとのことである。

場長による概要説明の後に、本事業場および食用油の製造プロセスを紹介するビデオを視聴した。食用油の製造プロセスは、「荷揚げ」→「貯蔵」→「精選～粗砕・圧扁」→「圧搾・抽出」→「脱ガス・脱酸」→「脱色」→「脱ロウ」→「脱臭」→「貯蔵」→「パッキング」→「保管～出荷」となる。本日はこれらの製造工程の中で、いくつかの工程を実際に見学する。

②工場見学

工場見学は2班に分かれてバスに乗車し工場内を移動する。まずは製造した製品を容器に充填する工程を見学した。充填室内は衛生管理上の理由から従業員以外の入室が許されていないので、見学者用に用意された窓からの見学となる。室内に立ち入る場合は、静電気が起こらない素材で作られた服を着用し、風速25m/秒の風で埃を取り去った後に入室するとのことである。見学室にもその風速を体感できる設備があ

り、我々もそれを体験した。充填ラインでは200g ～ 600gの油製品を毎分200本のスピードで充填していくので、一日の生産量は96000本にも上るとのことである。充填された製品は製品毎にラッピングされ異物検査等の検査工程をクリアーした製品のみが箱詰めされて、出荷までの期間、自動倉庫に保管される。

充填室の見学後再びバスに乗り荷揚げ埠頭を見学した。この事業場は原材料を荷揚げする専用岸壁を保有しており、海外からの材料も直接ここで荷揚げされ、通関等の手続もグループ会社が行っている。この埠頭には７万トンクラスの船舶が接岸でき、大豆や菜種等の原材料は岸壁に沿って191本（容量は1100トン）が立ち並んでいるサイロに保管される。また、この事業場には環境に配慮した様々な設備が設置されていて、その中の一つである都市ガスを燃料として工場で必要な電気や蒸気を効率よく作り出し、省エネ効果が高いとされるコジェネレーションシステムも車窓から見学した。

工場内設備を見学した後にギャラリーに戻り、そこに展示されている原材料のサンプルや製品類を見学した。ギャラリーには食用油が製造されるために必要な植物類も展示されている。一例としては、胡麻油250gを製造するためには500gの胡麻が必要で、更には胡麻を実らせる植物が35株必要となることなどが記載されている。我々が普段何気なく食べている食品を製造するために、相当な量の植物、それを育てる様々なエネルギーや水が消費されていることを実感した見学会であった。

全ての見学を終了し会議室に戻り活発な質疑応答がなされた後、ウェルネスギャラリーのエントランスで記念写真を撮影し見学会を終えた。

（中村　宜永）

日清オイリオグループ㈱横浜磯子事業場にて

「江戸文化研究会」が同好会入りしました

「江戸文化研究会」は、監査懇話会所属の同好の士の私的な集まりとして、一昨年以降22回の会合を重ねてきました。この３月の理事会において当会の同好会とすることをご承認いただきました。

今後、行事案内等で活動計画をご案内して参りますので、参加ご希望の方は担当世話人に期限までにお申込みください。

＜趣旨＞

幅広く「江戸文化」全般、特に文化・文政期以降の「町人文化」に触れることを目的とし、会員・会友の知的好奇心を満たし交流を促進する。

＜活動内容＞

芸能（落語・歌舞伎・文楽・江戸音曲）鑑賞、資料館・博物館見学、史蹟探訪等「江戸文化」に触れる各種活動を行う。具体的な活動は、世話人持回り方式により、世話人の創意工夫によって定める。

（菅野　重雄）

棋友会

12、２、３月の３例会
（於：六甲クラブ）

冬季大会

優 勝	下村　勝利
２ 位	藤間　孝雄
３ 位	中里　哲夫

生涯学習部会コーナー

句遊会

三月詠草

兼題：蒲公英、春泥、当季雑詠

蒲公英の這ひつくばりしダンプ道　清家静楓

宇宙へとたんぽぽの絮飛び立ちぬ　生江沢五風

たんぽぽやアプト式なる廃線路　佐藤政百

たんぽぽのおひたし肴夢うつつ　小野　信

春泥をわざと踏みたる反抗期　六川里風

春泥や轍ににじむ水の彩　中山知祐

春泥や軍靴の歩みありしとき　宮川至剛

木漏れ日に水音澄みて山葵沢　石原克己

春めくや初めて入るレストラン　城戸崎雅崇

下萌に土竜の土の柔らかき　森　邦彦

春光をのみ込む鯉の百の口　安井正浩

貧しきは逞しきかな夏ミャンマー　眞田宗興

写友会

「桜爛漫の弘前城」　大場　一彦

事務局通信

◆行事報告　出席者

第140回理事会
3月16日(木)10:00～12:00　文京区民センター　15

会報委員会
編集
3月8日(水)10:00～12:00　事務局　6
校正
3月22日(水)10:00～12:00　事務局　6

広報委員会
3月8日(水)14:00～17:00　事務局　10

ホームページ委員会
3月7日(火)13:30～17:00　事務局　5
3月17日(金)13:30～17:00　事務局　5

◇一般部会

第532回研修見学会
3月1日(水)13:30～15:00　40
日清オイリオグループ㈱ 横浜磯子事業場

第735回講演会
3月15日(水)14:00～16:00　日比谷図書文化館　76
講　師　千葉大学 名誉教授　山本 啓一氏
演　題　健康寿命の延ばし方

◇監査部会

第295回監査セミナー
3月28日(火)14:30～16:30　文京区民センター　71
（他体験2名、やよい会28名、有料1名）
講　師　公認会計士・新日本有限責任監査法人
シニアパートナー　中島 康晴氏
テーマ　2017年3月期　経理の論点

第203回監査実務研究会
3月29日(水)14:00～17:00　文京区民センター　14
問題提起者　元日新電機㈱ 常勤監査役　金馬 房雄氏
ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ　元応用地質㈱ 常勤監査役　石北 俊彦氏
テーマ　任意の諮問委員会の活用

第56回スタディグループ分科会
3月30日(木)14:30～17:00　文京区民センター　27
発表者　㈱極楽湯 常勤監査役　山田 貞一氏
中部東芝エンジニアリング㈱ 常勤監査役
吉田 郁夫氏
元小田急電鉄㈱ 常勤監査役　川田 勝美氏
ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀ　元富士石油㈱ 常勤監査役　中山 祐伸氏
テーマ　企業不祥事と第三者委員会

第54回独立委員会セミナー
3月22日(水)14:30～17:00　文京区民センター　27
発表者　監査等委員会設置会社検討会委員長
堀田 和郎氏
テーマ　監査等委員会設置会社検討会のその後のフォローアップ

第9回監査基礎講座
3月10日(金)14:00～17:00　文京区民センター　25
講　師　元農中信託銀行㈱ 監査役　鈴木 充郎氏
テーマ　株主総会における監査役の役割

第7回会計基礎講座
3月6日(月)14:00～17:00　文京区民センター　22
講　師　㈱システムインテグレータ 監査役　眞田 宗興氏
テーマ　粉飾決算のケーススタディ

取締役職務執行確認書委員会
3月1日(水)15:30～17:00　事務局　4

監査等委員会検討会委員会
3月9日(木)13:30～17:00　事務局　7

◇生涯学習部会

写友会　例会
3月6日(月)13:30～17:00　文京区民センター　22
写友会　撮影会
3月31日(金)10:00～13:00　新宿御苑　16
画友会　例会
3月4日(土)13:30～16:30　シビック・アトリエ　10
句遊会　例会
3月2日(木)14:00～16:00　菱友会会議室　10
楽友会　例会
3月8日(水)14:00～17:00　浅草教会　17
囲碁会　例会
3月16日(木)12:30～17:30　東京六甲クラブ　4
棋友会　例会
3月28日(火)13:00～17:00　東京六甲クラブ　10

◇同好会

声友会
3月14日(火)13:00～16:00　(銀座)505　12
エッセイクラブ
3月21日(火)13:00～15:30　菱友会会議室　13
楽器演奏同好会
3月18日(土)13:30～17:00　横浜練習会場　6
ウォーキング同好会
3月25日(土)9:30～14:00　四ツ谷周辺　28

◆会員異動

今月は会員の異動はありませんでした。

会　員	会　友	計
181	144	325

H29.3月末現在

編集後記

◇監査セミナーでは、例年に引き続き、中島康晴先生から会計の世界が大きく変わってきていることをご教授いただきました。国際会計基準（IFRS）を採用する企業も徐々に増加してきています。◇講演会では、千葉大学の山本先生から他人の世話にならないで生活する健康寿命についてお話をいただきました。適切な運動と食事が大事であることを痛感しました。◇研修見学会では、食用油のリーディングカンパニーである日清オイリオグループ㈱の事業場を見学しました。（川田　勝美）

〒113-0033　東京都文京区本郷2丁目28番1号　SKビル2階　TEL 03(5684)3323　FAX 03(5684)3306